



私は理系と呼ばれたい！

みなさんこんにちは。東京都農林総合研究センターの会田秀樹と申します。関東支部幹事会で一緒させていただいた、東京都健康安全研究センターの坂本美穂さんからバトンを受けました。分析化学会ではすみっこぐらしをしていて、こんな晴れやかな(?)場に出るなんて思ってもいませんでしたので、大いに焦ってバトンを落としそうになってしまいました。楽しいエッセイになるかわかりませんが、しばしお付き合いください。

さて、私は、今でこそ理系な仕事をしていますが、高校1年までは文系に進もうと考えていました。国語や英語が好きだったし、数学や物理の成績が最悪だったので、「アイツは文系」と認識されていたにちがいません。そんな私が、大学では生物や化学にかかわることを学ぶために農学部に行きたいと宣言した時、周囲はおおむね反対で、担任だった英語の先生だけが「そう思うのなら頑張れ！」と応援してくれたことを思い出します。今の私があるのはその先生のおかげです。

高校を卒業し、何とか東京農業大学農学部の畜産学科に入学することができました。畜産学科には畜産経営学なんて研究室もあるので、純粋な理系とはいえないかもしれませんが、ここから私の「理系ライフ」が始まりました。学年が進むにつれ、動物を扱う学問よりも化学っぽいことがやりたくなり、乳肉卵を扱う、畜産物利用学研究室に入りました。ここでガスクロマトグラフィー(GC)と出会ったのが、分析化学とのファーストコンタクトといってもよいでしょうか。当時のGCはマイクロシリンジによる「手打ち」で、先輩の華麗な(!)シリンジさばきを見て、理系の技のすごさに驚かされました。フロントパネルにはツマミがいっぱいあって、赤ペンでクロマトグラムが描き出され、ピーク面積とリテンションタイムはロール紙にドットプリントされる…そんな装置をいじっているうちにシリンジさばきも上達して、「自分は理系?」と思いついでしまいました。

大学卒業後は、縁あって東京都庁に採用されました。研究職に就きたいという希望が叶えられ、畜産試験場に配属されました。出身の研究室が化学っぽいところだったので、「化学分析が得意(好き)」と上司に認定され、畜産排水処理や堆肥生産技術の開発という化学分析の比重が比較的大きい仕事の担当になりました。その後、筑波大学大学院で研究する機会をもらって、液体クロマトグラフィー(LC)や誘導結合プラズマ質量分析(ICP-MS)に出会い、分析化学を仕事にしている多くの研究者・技術者と交流をするようになって、さらに理系っぽさが増したと錯覚しておりました。

ここまで書くと「やっぱり私は理系じゃん!」ってことになるのですが、分析化学会のような理系集団の中では、周りの理系オーラに圧倒され、 -3σ よりもさらに外側にポツンと取り残されたような気分になり、理系で



写真 普段持ち歩いている理系っぽいモノ。(左から、ハンディナビゲーター、気象計、関数電卓、マルチバンドレシーバー)

ある自信が揺らいでしまうのです。私は、空がどうして青いのかを説明できないし、目の前の数字が素数であるかを瞬時に判断できないし、バーで出された水割り中のウイスキーの濃度もわからないし、暗算で割り勘の計算はできないし…って、理系の人はこういうことがすんなりできるのですよね?

そういうわけで、科学の本を読んだり学会に参加して理系知識を集積し、スタイルだけでも理系に見られるように、ハンディナビゲーターや関数電卓、気象計、マルチバンドレシーバーといった理系っぽいモノを持ち歩き、バーのカウンターではエチルアルコールの分子模型をガラスの横に置いて、割り勘の計算に関数電卓を使ったりと涙ぐましい努力をしています。そんな私が、理系仲間認定される日は来るのでしょうか(来るといいたあ)。

さて、バトンは農研機構の馬場浩司さんにパスします。馬場さんとは「ぶんせき」編集委員会で出会い、農学系の研究機関に在籍するよしみで執筆をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。2018年の「ぶんせき」の表紙は馬場さんのデザインによるものなので、お名前をご存じの方も多いでしょう。そんな素敵なセンスをお持ちの方なので、きっと楽しいエッセイを書いてくれると期待しています。

[東京都農林総合研究センター 会田秀樹]